（別紙様式4）

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和3年9月1日※1
（前回公表年月日：令和2年9月1日）

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
JAPANサッカーカレッジ	平成14年1月9日	中村　勉	〒957-0103 新潟県北蒲原郡聖籠町大字網代浜925番地2 （電話）0254（32）5357
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人　国際総合学園	昭和32年10月10日	池田　弘	〒951-8065 新潟県新潟市中央区東堀通一番町494番地3 （電話）025（210）8565

分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士
文化・教養	文化・教養専門課程	サッカービジネス科	平成19年文部科学省告示第20号	—

学科の目的	2年間の現場実習やインターンシップを経験し、サッカービジネスにおける基礎を身につける。また、実際にプロの現場で学ぶことにより卒業後に即戦力となる人材を育成する。
認定年月日	平成30年2月28日

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2　年	昼間	1920時間	688時間	0時間	1168時間	0時間	64時間
							時間

生徒総定員	生徒実員	留学生数（生徒実員の内	専任教員数	兼任教員数	総教員数
60人	57人	0人	3人	3人	6人

学期制度	■前期：4月1日～8月31日 ■後期：9月1日～3月31日	成績評価	■成績表：　有 ■成績評価の基準・方法 A（優）　B（良）　C（可）　D（不可）　H（保留）
長期休み	■学年始：3月15日～4月5日 ■夏　季：8月1日～8月31日 ■冬　季：12月20日～1月7日	卒業・進級条件	■要出席時間数の80%以上出席していること ■必要科目単位をすべて取得していること ■学費等に未納が無いこと
学修支援等	■クラス担任制：　有 ■個別相談・指導等の対応 学生コンシェルジュの設置（担任以外の教員による面談等） 保護者宛に活動報告書を送付（保護者との連携） 個別対応（スクールカウンセラーによるカウンセリング）	課外活動	■課外活動の種類 学校周辺地域清掃活動 地域イベントボランティア参加 ■サークル活動：　無
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等（令和2年度卒業生） サッカー業界（全国のJリーグクラブや地域クラブのフロントスタッフ） ■就職指導内容 個別面談を実施し、本人の希望職種を確認した上で、インターンシップを実施。 授業内外において面接指導や履歴書作成指導を実施。 ■卒業者数　：　26　人 ■就職希望者数　：　26　人 ■就職者数　：　26　人 ■就職率　：　100　% ■卒業者に占める就職者の割合　：　100　% ■その他 （令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報）	主な学修成果（資格・検定等）※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 （令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報） ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）

資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
JFAｽﾎﾟｰﾂﾏﾈｰｼﾞｬｰｽﾞｶﾚｯｼﾞｻﾃﾗｲﾄ講座	③	8人	8人

中途退学の現状	■中途退学者　2 名　■中退率　3.5 % 令和2年4月1日時点において、在学者57名（令和2年4月1日入学者を含む） 令和3年3月31日時点において、在学者55名（令和3年3月31日卒業者を含む） ■中途退学の主な理由 学習意欲の低下、経済的理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 カウンセラーによるカウンセリングの実施 複数の教員による個人面談の実施
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：有 http://mydreams.jp/scholarship ■専門実践教育訓練給付：有 https://cupsnet.com/benefit
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：無
当該学科のホームページURL	http://cupsnet.com/about/course/business/

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

JAPANサッカーカレッジ サッカービジネス科と(株)アルビレックス新潟が連携し、サッカー業界における優れた人材を育成することを目的とする。
JAPANサッカーカレッジ サッカービジネス科が(株)アルビレックス新潟と連携し、外部実習等の様々な経験を通して優秀な人材を育成することで、在籍する学生自身にとって卒業後の就職先が拡がるとともに、新潟県のみならず日本全体のサッカー選手育成システムを牽引していくことができるような関係を構築する。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会で協議された事項および企業からの要請について、JAPANサッカーカレッジ教務部で再度協議し、より実践的かつ専門的な職業教育の実現に努める。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年9月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
国枝　晴隆	新潟県下越地区サッカー協会	令和元年11月1日～令和3年10月31日（2年）	①
武藤　惇史	株式会社アルビレックス新潟	令和元年11月1日～令和3年10月31日（2年）	③
小出　隆一	JAPANサッカーカレッジ顧問	令和元年11月1日～令和3年10月31日（2年）	
中村　勉	JAPANサッカーカレッジ学校長	令和元年11月1日～令和3年10月31日（2年）	
原　朋洋	JAPANサッカーカレッジ教務部長	令和元年11月1日～令和3年10月31日（2年）	
池田　保紀	JAPANサッカーカレッジ事務局長	令和元年11月1日～令和3年10月31日（2年）	
竹川　昌彦	JAPANサッカーカレッジ学科主任	令和元年11月1日～令和3年10月31日（2年）	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間2回（8月・2月）開催予定

（開催日時）
第1回　令和2年8月21日 15:00～16:00
第2回　令和3年2月9日 15:00～16:00

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会にて、より良い人材を育成するために実習時間（期間）を増加することはできないかとの意見があり、次年度カリキュラムで変更する予定。企業より要望があったフィードバックの時間数増加については今年度より取り入れている。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

JAPANサッカーカレッジ サッカービジネス科と(株)アルビレックス新潟が連携し、サッカー業界における優れた人材を育成することを目的とする。
JAPANサッカーカレッジ サッカービジネス科が(株)アルビレックス新潟と連携し、外部実習等の様々な経験を通して優秀な人材を育成することで、在籍する学生自身にとって卒業後の就職先が拡がるとともに、新潟県のみならず日本全体のサッカー業界を牽引していくことができるような関係を構築する。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

㈱アルビレックス新潟における各部署より毎回講師を招聘し、クラブ経営・クラブ運営について学び、即戦力となる人材育成を目指す。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
クラブ経営実践論	アルビレックス新潟の各部署より毎時間異なる講師を招聘し、アルビレックス新潟における経営について学ぶ。	㈱アルビレックス新潟

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
㈱アルビレックス新潟の推薦を受け、公益財団法人 日本サッカー協会が主催する指導者講習会に参加することを諸規定に定める。毎年10月にトライアルを受験させ、6月（前期）・9月（後期）に受講する。教員自身の指導能力向上を目的とするとともに講習会内容を授業や実習等で活用する

（2）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「日本サッカー協会公認キッズリーダーインストラクター養成講習会」（連携企業等：株式会社アルビレックス新潟）
期間：令和3年3月20日（土・祝）　対象：コーチ・審判専攻科教員1名
内容：子どもたちに関わる指導者に対し、体を動かすことの楽しさを伝える指導者の養成を目的とし、実技1.5時間、講義1.5時間のカリキュラム構成

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「「新年度を迎えるにあたって、クラス運営・授業・オンライン授業のうまいやり方」オンライン研修（連携企業等：全国専修学校教育研究会）
期間：令和3年2月5日（金）　対象：サッカービジネス科教員1名
内容：新年度を迎えるにあたり、改めて学び直すきっかけに。またコロナ禍でオンライン授業を行う先生方にとっても有益な気づきが得られる研修。

（3）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「日本サッカー協会公認B級コーチ養成講習会」（連携企業等：株式会社アルビレックス新潟）
期間：（前期）令和3年5月～7月、（後期）令和3年9月～11月　対象：サッカービジネス科教員1名
内容：サッカーの全体像を理解し、基本的な知識・指導力を獲得する講習会

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「令和3年度「教職員研修会」（進路指導セミナー）」（連携企業等：新潟県専門学校協会）
期間：令和3年11月11日（木）　対象：サッカービジネス科教員1名
内容：「やる気を出す魔法の言葉PEP TALK」、「専門学校に関わる加速的変化と今後の動向　～高校生・学生募集・教育業界など～」

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

JAPANサッカーカレッジが作成した「学校自己評価報告書」について、各評価項目における現状、課題と改善策について報告。あわせて、自己評価の参考資料となる、教職員・学生アンケートの結果や、学校運営状況についてまとめた資料に基づいて学校運営の様々な状況について報告し、各評価委員から、自己点検・評価報告に対する意見を頂き、頂いた意見を今後の学校運営に参考活用する。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	1．教育理念・目標
（2）学校運営	2．学校運営
（3）教育活動	3．教育活動
（4）学修成果	4．学修成果
（5）学生支援	5．学生支援
（6）教育環境	6．教育環境
（7）学生の受入れ募集	7．学生の受入れ募集
（8）財務	8．財務
（9）法令等の遵守	9．法令等の遵守
（10）社会貢献・地域貢献	10．社会貢献・地域貢献
（11）国際交流	11．国際交流

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会を開催し、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って実施した「学校自己点検報告書」について、当校に関係の深い9名の評価委員に評価していただいている。委員会において出された意見・アイデア・改善点・改善案を校内にてまとめ、次年度のカリキュラム編成・授業内容・授業時間や期間・担当教員の選定などに役立てている。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年9月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
国枝　晴隆	新潟県下越地区サッカー協会	令和元年11月1日～令和3年10月31日（2年）	①
神田　勝夫	㈱アルビレックス新潟	令和元年11月1日～令和3年10月31日（2年）	③
小出　隆一	JAPANサッカーカレッジ	令和元年11月1日～令和3年10月31日（2年）	顧問
中村　勉	JAPANサッカーカレッジ	令和元年11月1日～令和3年10月31日（2年）	学校長
原　朋洋	JAPANサッカーカレッジ	令和元年11月1日～令和3年10月31日（2年）	教務部長
池田　保紀	JAPANサッカーカレッジ	令和元年11月1日～令和3年10月31日（2年）	事務局長
田中　泰裕	JAPANサッカーカレッジ	令和元年11月1日～令和3年10月31日（2年）	学科主任
竹川　昌彦	JAPANサッカーカレッジ	令和元年11月1日～令和3年10月31日（2年）	学科主任
諏訪　雄大	JAPANサッカーカレッジ	令和元年11月1日～令和3年10月31日（2年）	学科主任
三ケ月　宏	JAPANサッカーカレッジ	令和元年11月1日～令和3年10月31日（2年）	学科主任
須崎　政幸	JAPANサッカーカレッジ	令和元年11月1日～令和3年10月31日（2年）	学科主任
老田　聡孔	JAPANサッカーカレッジ	令和元年11月1日～令和3年10月31日（2年）	学科主任

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ　・　広報誌等の刊行物　・　その他（　　）　）

9月中旬に学校ホームページ上で公開（URL:　https://www.cupsnet.com/pdf/r02_01.pdf）

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

JAPANサッカーカレッジが作成した「学校自己評価報告書」について、各評価項目における現状、課題と改善策について報告。あわせて、自己評価の参考資料となる、教職員・学生アンケートの結果や、学校運営状況についてまとめた資料に基づいて学校運営の様々な状況について情報を提供する。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	1．学校の概要、目標及び計画
（2）各学科等の教育	2．各学科等の教育
（3）教職員	3．教職員
（4）キャリア教育・実践的職業教育	4．キャリア教育・実践的職業教育
（5）様々な教育活動・教育環境	5．様々な教育活動・教育環境
（6）学生の生活支援	6．学生の生活支援
（7）学生納付金・修学支援	7．学生納付金・修学支援
（8）学校の財務	8．学校の財務
（9）学校評価	9．学校評価
（10）国際連携の状況	10．国際連携の状況
（11）その他	

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法

（ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　））

教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会のほかに別途会議を開催し文書にて㈱アルビレックス新潟へ報告している。

また学校ホームページ上でも公開している。公開時期は学校関係者評価委員会終了後の9月中旬。

（URL： https://www.cupsnet.com/pdf/r02_01gh.pdf）

授業科目等の概要

（文化・教養専門課程　サッカービジネス科）令和3年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			学科ホームルーム	学生自身が活動内容を報告・発表する。また、他の学生の活動状況を知ることで、自分自身の今後の活動に活かす。	1・2通	64	4	○			○		○		
○			就職実務	自己分析を中心に、就職とは何かを考えさせ、就職に対する動機づけを行う。就職活動のマナーを知り、面接対策等を実施し、就職活動への準備を目的とする。	2通	32	2	○			○			○	
○			コミュニケーションスキル演習	自己紹介や挨拶等を通じ、コミュニケーションの大切さを知るとともに、基礎的なコミュニケーションスキルを習得する。	1通	32	2	○			○			○	
○			プレゼンテーション技法	テーマについて情報収集し、自身の意見を論理的に伝える技術を獲得する。Power Pointを使用しプレゼンテーションする。	2通	32	2	○			○			○	
○			社会人常識マナー	ビジネスマナーや一般常識について、実践や実例を交えながらビジネスの基礎を学ぶ。ビジネス能力検定合格を目指す。	1通	32	2	○			○		○		
○			英会話	テキストの内容に即しながら行う各講義で、それぞれの内容を理解しながら、年間を通じて学生が英語で会話することを目指す。	1・2通	64	4	○			○		○		
○			ＯＡ	文章入力から編集の基礎、表計算の基礎、映像編集ソフトなど様々なパソコンソフトを使用し、今後も活用できるであろうパソコンソフトの可能性を探る。	1通	64	4	○			○		○		
		○	海外インターンシップ	海外インターンシップを希望し学内選考により選抜された場合、海外インターンシップに参加する。その際学年文単位を振り替えることとする。	2通	(528)	(33)			○		○	○		
○			クラブ経営実践論	アルビレックス新潟の各部署より毎時間異なる講師を招聘し、アルビレックス新潟における経営について学ぶ。	1通	32	2	○			○		○		○
○			スポーツマネジメント論	様々なスポーツイベント・大会運営の実例を参考にしながら、スポーツをより身近に感じてもらうためにどのような取り組みが必要と考えられるかを学ぶ。	1通	64	4	○			○		○		
○			地域連携論	主に聖籠町、新発田市、胎内市における地域での取り組みについて学ぶ。地域貢献活動をはじめ、商工会議所の活動についても学ぶ。	1通	32	2	○			○		○		
○			スポーツビジネス概論	マーケティングの基礎的な概念・理論についての知識を深める。有形・無形を問わず、モノ・サービスを扱う仕事に必要不可欠なマーケティングについて学ぶ。	1通	32	2	○			○		○		

（文化・教養専門課程　サッカービジネス科）令和3年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			リーグ運営論	今後実習として実際に運営に携わる北信越フットボールリーグをはじめ、各リーグにおける運営におけるそれぞれの部署の役割について学ぶ。	1前期	16	1	○			○		○		
○			運営実習振り返り	北信越フットボールリーグ運営実習における振り返りを行う。各部署より前週の活動報告、課題点、問題点、改善点等を共有する。	1・2通	96	6	○			○		○		
○			イベント企画・実践	グルーピングされたチーム内で、校内外におけるイベントを企画・立案し発表をする。最終的にイベントを開催・運営する。	1通	32	2	○			○		○		
○			救急法	ＡＥＤの使用法や、応急処置の方法を学ぶとともに、日本赤十字社認定赤十字救急法救急員の資格を取得する。	2通	32	2	○		△	○		○		
○			内部実習	学校内における実習を行う。それぞれの部署に分かれ活動を実施し、活動報告プレゼンを実施。	1・2通	544	34			○	○		○		
○			地域イベント・ホームゲーム実習	地域貢献活動の一環として、サッカーだけにとどまらず地域のイベントに参加し運営に携わる。	1・2通	384	24			○	○		○		
○			遠征	国内で行われる大会運営に携わり、現場で学んだことを自分たちが企画するイベントに活かす。また国外遠征では海外スポーツビジネスについて見聞を広める。	1・2通	240	15			○		○	○		
○			キッズリーダー指導実践	子どもとの関わりあいから、年少世代への指導に必要な能力を育成し、ＪFA公認キッズリーダーALL取得を目指す。	1通	64	4			○	○			○	
		○	指導実践	１年次はC級コーチ養成講習会のテーマに沿って、２年次はグループ戦術を中心に指導実践を行う。	1・2通	(64)	(4)			○	○		○		
合計				22科目	1920時間										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
必須科目全ての授業単位を取得すること。各授業80%以上の出席率であること。	１学年の学期区分	前後期
	１学期の授業期間	16週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。